

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3373700420		
法人名	社会福祉法人 千寿福社会		
事業所名	グループホームほほえみ		
所在地	岡山県美作市福本911-1		
自己評価作成日	平成24年 11月 8日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_2012_022_kani=true&JigvosvoCd=3373700420-00&PrefCd=33&VersionCd
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社アウルメディカルサービス		
所在地	岡山市北区岩井二丁目2-18		
訪問調査日	平成24年 11月 22日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・アピールしたい点 環境に恵まれているので四季を身近に感じながら日々の暮らしができる。職員は皆明るく楽しく協力し合いながら仕事をしている。 ・力を入れたい点 利用者を閉じ込めずできるだけ地域へ出向く。家族との関わりを増やす。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>自然に恵まれた静かな山あいという環境を活かし、グループホームの2つのユニットの間にある広いウッドデッキでは、天気の良い日に日向ぼっこをしたり、お茶会をしたり楽しんでいる。訪問当日はお誕生日会を催しており、2ユニットの利用者が集まり、職員の元気なかけ声に合わせて体操をしたり、レクリエーションを楽しみ、大きな笑い声が響いていた。職員がとても上手に楽しく利用者に声をかけており、みんな思わず笑ってしまったり、張り切ってしまう姿があった。嚙下体操やラジオ体操なども身体機能を維持していくために日課として取り入れている。また、いつも驚かされるのは立体壁画の完成度である。季節毎に作成しており、今回は『鍋っていいな〜』という壁画が飾られていた。担当になった職員がアイデアを出し、利用者と一緒に作りあげた作品は周りをほんわかと温かい雰囲気になると同時に、芸術的な大人の雰囲気も感じるものとなっている。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型サービスであることを職員が認識、理解し地域の中でのふれあい、関わりに努める。理念と方針は、よく見える所に掲示している。	理念に『ロマン(夢)を抱いて』というフレーズが入っている。管理者は自分たちが笑顔でないと利用者に夢を与えられないと話される。利用者に『まだまだやれるなあ』という気持ちが湧いてきて、ほがらかで楽しい人生が送れるよう、職員が笑顔を忘れずに支援を行っている。	管理者が高い理想と信念を持っており、介護を実践している姿を感じた。職員にもマニュアル通りの介護ではなく、常にプロ意識を持って利用者に接することを伝えている。今後も認知症介護のプロとして職員はもちろん、地域の方にも伝えて頂けることを期待します。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	その時の利用者の状況に応じて出向いていく事が困難な時は地元の方、中学生やボランティアを通してふれあいを深める。誕生日会、レクリエーションにボランティアをとり入れる。	事業所で行うお祭りや七夕会、クリスマス会などに利用者の家族や同法人の利用者を招待したり、近くにある公民館でカラオケ大会等に参加し、交流を図っている。また、地域の小学生の訪問や中学生の職場体験も恒例となっており、子供達が福祉と触れ合う場も提供している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域で開催される会合研修にはできるだけ多くの職員が参加するようにしている(管理者も含む)		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進委員会は偶数月に行うようにしている。議題は事前に話し合いにて決める。全員の意見や指導を参考に現場に活かしている。	2ヶ月に1回、開催している。参加者は自治の副会長や民生委員、家族会代表、地域包括支援センター職員等である。事業所の報告の後、インフルエンザやノロウイルス等時期的な課題を議題とし、皆で検討し、意見交換を行っている。この会議で出された意見を活かし、取り組んでいる。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議には市町村の出席を頂き、その時の助言や指導を参考に対応している。わからない事は市町村に相談する。	市の担当者は運営推進会議に出席しており、顔見知りの関係となっている。分からない事があれば連絡し、相談している。また、美作市にある7つのグループホームが定期的に合同研修会を行い、管理者同士が協力をして行政に現場を知って頂くためのアピールを行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	出入口、玄関の施錠はしていません。帰宅願望が強く不穏になられる利用者の方には職員が納得されるまでつき合う。散歩などで気分転換をはかる。	玄関は施錠はせず、自由に入出入りすることができるため、職員は常に見守りを行っている。また、2つのユニットの出入り口も開放しており、ウッドデッキを使って自由に移動でき、利用者は自分の好きな場所でくつろぐことができる。年に数回、研修を行うことで職員が必ず1回は参加している。身体拘束をしないケアについて高い意識を持ち、支援を行っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止の認識は職員全員認識しております。施設内での研修(勉強会)も行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在この制度が必要な方は、おられないが研修等には管理者職員問わず出席するようにしている。復命書にて職員に認識をはかる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時の説明の際、契約書重要事項説明書については、充分話をしているのでご家族は理解して下さっていると思う。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	平成21年5月に発足した家族の会の協力で家族の輪を広げ意見や要望を聞き職員会議などで検討し実行実施している。	毎月、家族に利用者の状況など手紙を書き、送付している。また、面会時にも声をかけ、家族の思いを聞くよう心掛けている。家族の会が行事の手伝いや窓拭き等掃除の手伝い、食事会への参加など協力的であり、職員と一緒に行うことでお互いに交流し、親しい関係作りができています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定例の職員会議、毎日のミーティングで話し合い意見交換をしている。	月始めにミーティングを開催し、全職員に何か一言でも意見や思いを話してもらっている。良い意見は積極的に取り上げ、現場での反省や向上に役立っている。職員同士が注意し合い、お互いに良い職場になるよう、笑顔を第一に支援を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格必要と思われる職員については研修に出席するように進めている。時々ストレス調査を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員同士がコミュニケーションがとれる状況作りに配慮し、個人の苦情や不満を聞く場を設けるようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者、ケアマネが出席しての市内での会合には参加するようにしている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所の申し込みを頂いた利用者の方には、事前に面接を行い家族の思いご本人の生活状態、心身の状態などを把握しておく。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	施設に対してご本人、ご家族が希望するものは何かを聞き信頼関係をつくることに努める。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	早急な対応を求められる方についてはケアマネージャー、また、他の事業所と連携をとり、柔軟な対応を行う。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	その時その時のご本人の状況や状態によりさりげなく見守りをするケアをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様来所の時は、居室又はホールでご本人とゆっくり話す時間をすごしていただく。行事への参加をお願いする。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	時々買い物兼ねて実家の近くにドライブに行ったり、地区の方が来られる日にデイサービスに遊びに行ったりしている。	職員が付き添い、利用者それぞれが好きな物を買いに馴染みの店に行ったり、自宅付近までドライブすることもある。隣にある老人福祉施設に知人がいるときに会いに行き、お話しをすることもある。家族の協力により行きつけの散髪屋さんに行ったり、外出に出かける方もおられる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	できるだけソファでゆっくりとくつろいで頂く時間をつくる。相性の悪い方については、席を変えたり座る位置を考慮する。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約を終了した方にも行事の案内状を出したり、時には立ち寄っていただけるように声かけをしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者一人ひとりとゆっくり話をしたり、関わりをもつ時間をつくるようにしている。昔を思い出していただき、その当時の話しなどを聞き出すような状況を作る。	入居前に本人や家族と十分に話し、思いや希望を聞き、今後の生活に活かせるように努めている。生活歴も十分に理解し、職員全員が思いの把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者一人ひとりを大切に思っている気持ちを伝え、安心して生活していただけるように配慮する。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者様一人ひとりの生活のリズムや状況を考えながら、入浴や昼間の臥床などを取り入れる。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月に一度のモニタリングを行い利用者主体のケアを考えている。職員には担当者会議で徹底している。家族には面会時に報告をしている。	担当者会議を実施し、本人の思いを反映させてケアプランを作成している。毎月モニタリングを行い、半年に1回、ケアプランの見直しを実施している。気づきや変化があれば、その都度ミーティングを実施している。医療面について看護師や医師にも相談し、意見を取り入れている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	定例の職員会議や毎日の申し送りを通して、利用者の変化や状況などの共有をしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	既存のサービスに促されない柔軟な支援やサービスをし多機能化に取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	民生委員との意見交換会を行う。訪問理容(地域の業者)を活用している。第三者委員会を立ち上げ意見を聞く。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	毎月、利用者全員定期受診を行う。かかりつけ医とは、常に連携を取り、状態に応じて(緊急を含む)受診している。	入所時に以前から利用している医療機関か、協力医療機関を利用するか本人や家族の希望を聞いている。利用者の状態に合わせて、月に1~2回の往診により健康管理を行っている。協力医療機関の医師も事業所に協力的で、変化があるときはいつでも電話をして指示を仰ぐことができる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週一回(水曜日)訪問介護を取り入れている。(ささいな事もすぐに相談できるので心強いところがある)		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の場合は症状等について家族と話し合い情報の交換をしながら一日おきに見舞うようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期についての方針は事前に家族とよく話し合いをし、家族の要望や意志を十分に把握した上でターミナルの希望があれば応じる。	本人や家族からの希望があるとき、終末期の支援を行っている。その際、家族の思いを尊重し支援の方針を決めているが、随時話し合いの時間をもち、思いをくみ取るようにしている。医療機関とも十分に連携を図っている。職員に対し、マニュアル通りではなく、どのように対応するか自分の身に置き換え、考えるよう指導している。また、管理者は職員のメンタル面のフォローも重要と考え、実施している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員全員が参加する勉強会を実施している。テーマを変えて3ヶ月に一度実施している。(実技講習を含む)		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協働体制を築いている	避難訓練は、年に3回を目標に実施している。他の部署での消火訓練にも参加する。	避難訓練は年に3回、実施している。法人内で消火器の使い方の訓練を行ったり、地域の消防団も一緒に訓練をしている。水害についてシュミレーションを行う等、職員の意識も高い。併設の老人福祉施設と協力し、緊急時には受け入れ態勢も出来ている。	事業所の後ろが小高い山となっており、土砂災害などの危険についても話題となった。法人全体として意識が高く、検討もなされている。今後、利用者の家族や地域住民にも参加して頂き、災害の可能性やその対策方法など話し合い、情報の共有を図る事を期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	特にトイレ介助入浴介助の際は言葉かけに充分配慮している。	本人の思いや選択をできるだけ尊重し、支援している。利用者に対する言葉遣いやトイレ誘導時の声かけ等配慮が感じられ、とても好感が持てる。また、自然に丁寧な声かけになるよう、利用者の名前を呼ぶときは日頃からフルネームとしている。職員が高いプロ意識を持ち、支援ができるよう研修も計画的に行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入浴やその日の衣類については、ご本人の意志や希望を重視している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人が一番良い状態で生活していただけるように配慮している。自分の好きなことをしていただく。何をしたいのか分からない方への声かけをする。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類は自分が選んだ衣服を身につけるようにしている。行事の時など化粧したり派手な服を着たりしておしゃれをしていただく。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	メニューは利用者の方と話し合っ決めて、一緒に買い物をする事もある。食器や盛り付けにも工夫している。	食事は三食ともに手作りで地元の食材を利用し、季節感のある食事を心がけている。献立は栄養士が作成し、調理は衛生面に配慮しつつ、職員が行っている。食事の前には誤嚥予防の為、嚥下体操もしっかりと実施している。BGMも活用し、利用者もゆったりと穏やかに食事をしている。	衛生面から考えると職員主体の調理となってしまうが、利用者の力を活かし、出来る事はして頂くことも必要ではないか。急須でお茶を入れるなど、何か一緒に出来る事を検討して頂くことを期待します。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	見た目と栄養のバランスを考えて調理する。カロリーチェックについては、栄養士がチェックしている。(1800cal)		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後のうがいはかかさないように気をつける。うがいの出来にくい方は、ガーゼなどで口腔ケアをする。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレ誘導、排泄介助の声かけには、十分に配慮している。自尊心を傷つけないように気をつけている。	利用者の気持ちを考え、大きな声をしない、さりげない声かけを行っている。利用者の排泄パターンやトイレサインを把握し、対応している。トイレには利用者が分かるように印がつけられ、安全に使用できるよう手すりなど配慮されている。清掃も行き届いており清潔感がある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘症をもっておられる方についてはかかりつけ医と相談しながら対応している。一時的な便秘の方には食べ物等で工夫している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は一人ひとりに声かけをしてできるだけ多くの方に入っていただく。羞恥心・恐怖感には充分注意する。	利用者の気持ちや体調を尊重し、実施している。本人の希望により、毎日入浴している方もおられる。また、浴室も安全に配慮され、清潔に保たれている。2つの浴槽が配置されており、仲のいい利用者同士でお風呂に入り、リラックスして、話しに花が咲くことも多い。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一日離床が無理な方については夜間の就寝に差し支えない時間にする。昼夜逆転に気をつける。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬ファイルをつくり職員が内容を把握できるようにしている。体調の変化がみられる時はかかりつけ医にすぐ相談する。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者の生活歴や趣味などを活かした作業や手伝いが楽しみながらできるように声かけをする。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物は時々、利用者と一緒に行くようにしている。金融機関に用事の時など、少しドライブをしたりする。	食材の買い出しや施設周りの散歩など日頃から外出を心がけている。近隣にある観光地(足湯・公園・ドライブイン等)、ファーマーズマーケット等にお弁当やおやつを持って外出することもある。2つのユニットの間には広いウッドデッキがあり、天気の良い日には運動やゲームを戸外で楽しむことができる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族よりお小遣いとして現金を預かっているので、その中からホーム内でバイキング形式で好きなものを買う。買い物に出た時は一品だけ買う。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者から電話をしてほしいとの希望があった時はその場です。手紙のやりとりは、自由にしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホール、居室内を明るい雰囲気にするように配慮している。壁画などでは、季節感を取り入れる。レクリエーションの中で時期の話題を取り入れる。	玄関前にはトランペットの白い大きな花がきれいに咲いている。共有空間は木目調で広く、ソファや椅子を所々に配置しており、利用者も自分のお気に入りの場所でマイペースで過ごしている。気候がいい時はウッドデッキで季節を感じながら過ごす事も出来る。感染症予防のため、加湿器や温湿度計を設置し、温度や湿度の管理も細かく実施している。	利用者が季節感を感じる事が出来るよう壁面を利用した装飾がとても工夫されていた。利用者、職員が共に手作りしたものと同じ、今までの壁画の写真も見せて頂いたが、とても完成度が高く、ほっこりとした雰囲気が素敵で感激した。できれば行事のときや地域の公民館などで展示し、地域の方に見て頂く機会を作ってはどうだろうか。地域の方も驚くと同時に、利用者の力に感銘するだろう。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室、又はソファで好きなようにくつろいでいただける雰囲気づくりに努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の方には馴染みのものなどを持ってきていただいている。寝具、シーツなどにこだわりのある方については希望を尊重している。	居室の清掃やベットメイクなど本人の気持ちや希望を優先している。また、自宅から使い慣れた家具を持ち込むこともでき、居室内のレイアウトも自由に利用者にとって居心地の良い空間となっている。居室は個人の大切な空間と考え、部屋の物を触るときには必ず本人に声をかけている。例えば、布団をたたむときにも「布団をたたんでおきますか？」と声をかけてから行うようにしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室内は、本人がわかりやすい場所に物を置くようにしている。危険につながるもの以外は自由に使えるようにしている。		